

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100748		
法人名	セントケア和歌山株式会社		
事業所名(ユニット名)	セントケアホーム城北(1階)		
所在地	和歌山県和歌山市東布経丁3-6		
自己評価作成日	平成28年2月20日	評価結果市町村受理日	平成28年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成28年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の今までの暮らしを大切にし、地域の中で大切な存在で在り続けられるよう、おひとりおひとりにしっかりと向き合い、想いに寄り添い「地域で生きる」ことを支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はキッチン専門スタッフを配置しており、栄養管理だけでなく、利用者一人ひとりの好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫する事で食事がより楽しいものとなっている。又他の職員が利用者と一緒にゆったりと過ごす場面が増えるという相乗効果もある。健康管理や医療面でも、かかりつけ医や訪問看護の適切な医療を受ける事で、利用者及び家族等は不安なく生活を送る事ができる。地域との連携は事業所が重視する課題の一つであり、運営推進会議を有効に活用すると共に、直接地域に足を運びながら、コミュニケーションの強化を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて事業所理念の読み合わせを行い、理念の共有に努めている。	「福祉コミュニティの創造」を理念の冒頭に掲げ、管理者と職員はその理念を共有し、意識づけをしていく為に常に読み合わせを行いながら、日々の実践の場で理念が反映されているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のお店にお客様と一緒に出掛けたり、催しが開催される時には参加している。	近くの喫茶店で開かれる朗読会に出席したり、地域の理髪店・美容室等を利用したりと、地域の方々との交流を日常的に持っている。職員が属するグループによるシャンソンの発表会もまた利用者や地域の方々との交流の格好の機会である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通して、地域の高齢者の状況などをお聞きし、認知症ケアの専門性を活かし助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、ホームでの取り組みを報告している。また、ご意見をいただきサービス改善に努めている。	運営推進会議には、利用者家族・後見人・自治会長・地域包括支援センター職員・知見者等が参加し、利用者の暮らしぶりや事業所の取り組み等の報告を行い、そこでの意見を運営に活かしており、中でも災害対策について迅速な実行を心がけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の包括支援センターには頻回に訪問し、当ホームの取り組みをご報告し、協力関係を築けるように取り組んでいる。	地域包括支援センター担当者とは、運営推進会議の場以外にも、月2回訪問する事で連絡を密に取っており、利用状況や事業所の目指すサービス内容等を積極的に伝え、助言を得る等双方向の協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束について研修を行い、キッチンスタッフ含め全員が受講している。お客様の希望があればいつでも外出できるようにしている。	事業所の研修プログラムに加え、外部での研修を通して、代表者及びすべての職員は拘束となる具体的な行為を正しく理解している。特に言葉による拘束の廃除の難しさも十分に認識しており、事業所全体で日常的な確認と改善に向けた取り組みを続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	年2回虐待について研修を行い、キッチンスタッフ含め全員が受講している。また、日々のケアの中で虐待に繋がっていく不適切なケアになっていないか検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	お客様にも成年後見制度を利用している方がおり、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に安心していただけるよう、十分に説明を行いご理解していただいている。また、不安が生じたときには、いつでもご相談いただけるよう体制づくりをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご意見を頂くほか、年1回「お客様満足度調査」を実施し、サービスについてご意見を頂いている。	利用者・家族等からの直接の聞き取りや無記名での「お客様満足度調査」、運営推進会議等で出された意見・要望を運営に反映させており、事業所だけでなく外部者にも意見・要望を表せる事を契約時に説明し、文書にも明示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを実施し、スタッフの意見、提案を聞く機会を設けている。また、ミーティング以外でも、常にスタッフの意見、提案を取り入れている。	職員は会議の場以外にも随時意見・提案を出せる職場環境にある。利用者個々のケアの内容や事業所活動への取り組み、生活を潤す備品の購入等、職員から積極的に意見・提案が出され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的にスタッフとの面談を実施し、各自の目標、それに向けての課題などを共有し、改善、向上している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず、ご入居されているお客様に必要である内容の研修を受講していただいている。また、研修の案内などを回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人ではあるが、交流する機会をつくりお互いのサービス内での活動を聞き、学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際には、ご本人様に事前に面談させていただきお話しを伺う機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームへの入居を検討いただいている段階での困りごとをお聞きし、またご本人様にも事前に面談させていただきお話しを伺う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談を頂いた段階で、サービスを利用することで在宅生活を継続できるようにであれば、在宅サービスを勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様とのコミュニケーションを重視し、今の思いを理解し、ケアに繋げるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外にも、ご本人様のご様子を頻繁にご報告している。面会や外出などご家族との時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来て下さったり、以前入っていた婦人会に再び入り、昔の仲間と共に活動できるよう支援している。	デイサービスを利用する知人との交流や、婦人会への再加入、墓参り、元の暮らしの場への外出や外泊等本人にとって大切な馴染みの人や場との関係が継続できるよう、家族や婦人会の方々の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入りお客様同志の関係性を構築していく中で、お互いに手伝ったりの関係性ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、同法人内のサービスを利用することもあり必要に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、ご意見・ご意向を把握している。また、把握が困難な場合には、「お客様第一主義」を徹底している。	事業所独自のメモリーブックを活用し、把握した利用者一人ひとりの思いや意向を職員間で共有している。把握が困難な場合は、家族等から聞き取った以前の生活を参考に、検討を重ね、実践を通して確認しながらの対応である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居の際に、メモリーブックを記入していただき今までの暮らしを把握している。また、面会時にご家族様との会話の中からお聞きすることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居の際には、一日の過ごし方などメモリーブックを通しご家族様からお聞きし把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを開催し、ご本人が今困っていること、ご希望、またご家族のお気持ちに添えるよう皆で検討し、介護計画を作成している。	本人、家族等、医師・看護師等の関係者と話し合うと共に、職員間での十分な検討を経て、それぞれの意見やアイデアを活かした、目標の達成が可能な介護計画を作成し、モニタリングで推移を見守り、修正を加えながら、現状に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と日々の記録が繋がるように努め、スタッフの間で情報が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるサービスについて、様々な方向から考え、いくつかの選択肢をご家族様と共に検討し、支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握し、お客様おひとりおひとりに応じ、今までの暮らしをできるだけ継続できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様のかかりつけ医に、ご入居後も診察していただいている。	本人及び家族等がかかりつけ医を選び、往診によるか外部の医療機関の受診である。往診時は管理者が立ち会い、家族等が同伴しての外部の医療機関の受診時は文書で情報を提供する等、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携の契約を行い、週1回の訪問、また、必要時に相談できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、頻繁に訪問し、状態の把握に努めている。また、普段からも連携室との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約の際に、グループホームでの看取りについてご説明している。また、重度化した場合は、再度グループホームで出来る事をご説明し、関係機関とカンファレンスを行い取り組んでいる。	契約時に事業所のできる事を説明すると共に、段階毎に本人・家族等とかかりつけ医を交えて話し合い、方針を共有しながらの対応である。同一法人内に看護小規模多機能事業所を併設している為、看取りの事例はないが本人・家族等の希望があれば、かかりつけ医や看護師の協力を得て看取りに取り組むつもりであり、準備を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回緊急時の対応について研修を行い、また順次消防署での講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回訓練を行い、避難できる方法を身につけている。そのうち年1回は消防署の立会いの下訓練を実施しアドバイスを頂いている。また、運営推進会議などでも災害時の課題などを検討し、アドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人格を尊重し、押し付けにならないよう、ご本人様の意志を主体とし、排泄、入浴などは同性介護を心掛けている。	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーを確保する事をケア実践の基本に据えての個々の場面への対応である。利用者の個人情報については、秘密保持の観点から施錠できる保管庫の目隠しのされた部分に納め、必要時のみの取り出しを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご本人様の思いや希望を表せることができるような声掛けや、思いを伺う機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりおひとりのその日の体調や気分、またペースを大切に、ゆっくりとお部屋で過ごしたり、入浴時間やお食事時間などは希望に沿ってできるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容の訪問でカットしていただいたり、ご希望で近所の理髪店・美容室に行っている。日々の洋服もご自分が決められるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人様の好みを把握し、提供している。	調理専門スタッフの配置により、利用者一人ひとりの好みに合わせて、肉や野菜の種類を個別に選択する等の配慮が行き届いており、利用者は配膳や後片付けに持てる力を発揮している。自家菜園からの収穫物や月毎の赤飯の日、手づくりおやつ、屋外でのバーベキュー等は大好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量・摂取状況を把握し記録し、スタッフ全員が状態を共有できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、ご本人様の状態に応じた用具を使用し実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本様に合わせた排泄介助を行い、日中はできるだけトイレに行けるよう介助を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけ等の対応に注意を払いながら、トイレでの排泄を支援している。目標はあくまでも排泄の自立であるが、まずは現在の力の保持に努め、段階を踏んでの着実な力の向上を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に、ヨーグルトやバナナを提供し、水分不足にならないよう水分摂取量の把握、提供を行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴していただいたり、お客様の生活に合わせて午前・午後と入浴していただいている。	季節湯の実施や入浴剤の使用で入浴の楽しさが倍加しており、同性による介護がくつろいだ気分での入浴に繋がっている。入浴を拒み勝ちな利用者については、入浴の実現のみにとらわれず、話し合いの中で本人の自己決定を促し、その意見を尊重するという姿勢である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おひとりおひとりの身体状況や体調、気分に合わせて休息できるようにし、また、夜間は眠れないご様子の時には、ゆっくりとお話を聞くなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お客様が服用しているお薬はファイルでかくにんし、理解できるように努めている。お客様の状態によって、臨時で出されるお薬などは申し送りノートを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様と一緒に図書館に行ったり、公園に出かけたりしている。お天気のいい日にはドライブに出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外食、また、季節の行事で出かけている。また、買い物の希望があれば出かけている。馴染みの美容室などには、ご家族と共に出かけたりしている。	菜園の手入れや散歩・買い物等で戸外に出かける事は日常的であり、月単位ではドライブ・外食・理美容等に、又普段は行けないような場所へは年間行事に組み入れて出かけている。家族等の協力を得ながらの実施である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様のご希望に添いお金を所持されている。また、支払などの際には、できるだけご自分で出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族さまやご友人と電話が自由にできるように携帯電話を持っている方もいらっしゃいます。また、お手紙を書くのに一緒に書くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や小物などを「茶」で統一し落ち着いた雰囲気にし、季節ごとの壁飾りはスペースも掛け貼っている。また、季節に応じた生花を飾っている。	共用空間の五感刺激には全職員が常に注意を払い、冬場は加湿器を活用している。落ち着いた色調の調度が居心地の良さを誘い、利用者は思い思いにゆったりと過ごす事ができる。利用者の目線に合わせて飾られた生花は季節感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を考慮し、お客様のお気持ち、関係性を大切にできるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたダンスや、ご家族との写真などご本人様の親しみのあるものを置き、居心地のよい空間なるよう努めている。	居室は、利用者がそれぞれ馴染みの物を活かし、その人らしく暮らせる部屋となっており、希望があれば畳を敷く事もできる。施錠は内側からも可能であり、職員は訪れる際には必ずノック・声かけを行う等プライバシーにも十分に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の出来る事わかることを把握し、お客様が安全に生活できるように環境づくりをしている。		